

ブラジル -政策金利、据え置き続く-

<政策金利は据え置き>

3月2日（現地時間）、ブラジル中央銀行（以下、BCB）は金融政策委員会において、5会合連続で政策金利を14.25%に据え置くことを決定しました。

声明文は前回とほぼ同じ内容で、マクロ経済シナリオ、インフレ見通しおよび現在のリスクバランスを検討し、国内と、特に海外の不確実性を考慮した結果、政策金利の据え置きを決定したとしています。また、前回同様、全8委員中6人が金利据え置きを支持した一方で、2人が50bpの利上げを主張しました。

<ブラジル景気は悪化傾向>

ブラジル経済は鉱工業生産の落ち込みに加え、通貨安による輸入物価の上昇でインフレが常態化、個人消費も弱まっています。足許ブラジル政府が進める財政緊縮策や、インフレ抑制のための高金利政策も景気の下押し材料になっています。

2月24日には、格付け会社ムーディーズ・インベスターズ・サービスがブラジル国債を投機的等級に格下げしました。ムーディーズは、「ブラジルの債務指標はここ数カ月で顕著に悪化し、向こう3年も悪化が続く見込み」とし、国内政治が不安定になっていることで、財政赤字削減や構造改革の実施が困難になる恐れがあると指摘、見通しも「ネガティブ」に引下げました。

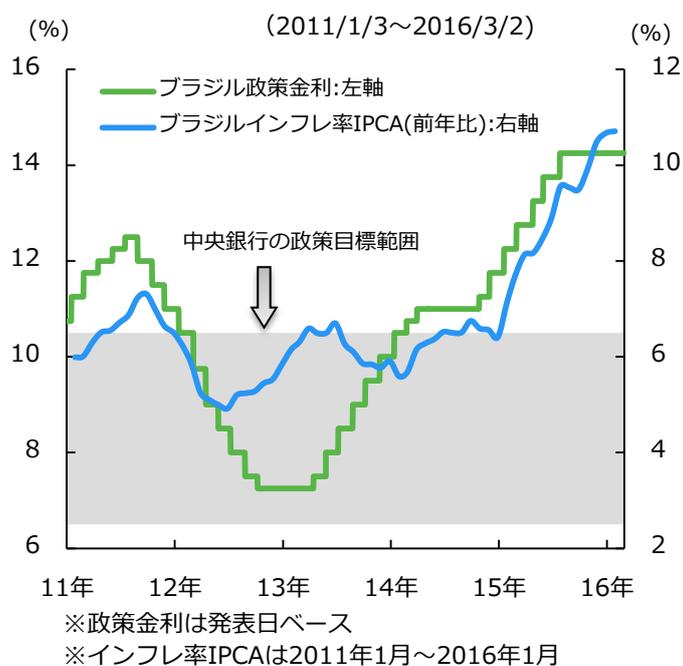
ブラジルレアル（以下レアル）については、格下げの影響は限定的となり、足許は原油価格や世界の株式市場が堅調に推移したことなどを背景に、対円、対米ドルで底堅い動きとなっています（3月2日の海外終値：1米ドル＝3.8941レアル、1レアル＝29.15円）。

<今後の見通し>

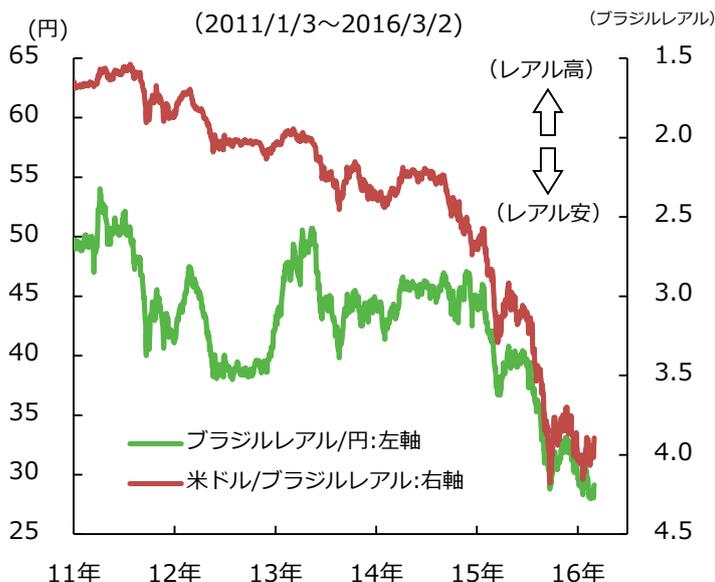
ブラジル経済はスタグフレーション（景気後退と物価上昇が同時に進行する状態）に陥っており、市場では、政策金利は当面据え置きが続くとの見方が広がっています。

今後は、米国の金融正常化の動きから新興国・資源国の通貨は変動性が高まりやすいことに加え、国内景気の低迷や政局不安、財政再建の遅れに伴う信用不安などによりレアルは当面不安定な動きが続くことが予想されます。レアルの安定のためには、スタグフレーションの緩和、財政再建策の進展、政局不安の鎮静化が求められます。

<政策金利とインフレ率の推移>



<ブラジルレアルの推移>



出所：Bloomberg

お取引にあたっての手数料等およびリスクについて

手数料等およびリスクについて

- 株式等の売買等にあたっては、「ダイワ・コンサルティング」コースの店舗（支店担当者）経由で国内委託取引を行う場合、約定代金に対して最大 1.24200%（但し、最低 2,700 円）の委託手数料（税込）が必要となります。また、外国株式等の外国取引にあたっては、現地諸費用等を別途いただくことがあります。
- 株式等の売買等にあたっては、価格等の変動による損失が生じるおそれがあります。また、外国株式等の売買等にあたっては価格変動のほかに為替相場の変動等による損失が生じるおそれがあります。
- 信用取引を行うにあたっては、売買代金の 30%以上で、かつ 30 万円以上の委託保証金が事前に必要です。信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、損失の額が差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。
- 債券を募集・売出し等により、又は当社との相対取引により売買する場合は、その対価（購入対価・売却対価）のみを受払いいただきます。円貨建て債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。外貨建て債券は、金利水準の変動に加え、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、債券の発行者または元利金の支払いを保証する者の財務状況等の変化、およびそれらに関する外部評価の変化等により、損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託をお取引していただく際に、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費、等をご負担いただきます。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

- 取引コースや商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書、等をよくお読みください。
- 外国株式、外国債券の銘柄には、我が国の金融商品取引法に基づく企業内容の開示が行われていないものもあります。

商号等 : 大和証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号

加入協会 : 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会